

平成12年度全学テーマ別評価のテーマ概要

【テーマ：教育サービス面における社会貢献】

大学や大学共同利用機関（以下、大学等という。）には、社会との関わりにおいて様々な期待が寄せられている。教育面においては、正規課程における社会の各分野で活躍できる優れた人材の養成だけでなく、社会の高度化・複雑化に伴う職業能力の向上、国民のゆとりや心の豊かさなどの多様な価値や自己実現など、幅広い年齢層の知的探求心や生涯学習の需要の高まりにこたえ、体系的かつ継続的な学習の場として、より開かれることが求められている。

各大学等においては、これらのニーズや大学等の実情を踏まえ、正規課程の学生以外の者に対して、科目等履修生制度の開設、公開講座、研修・セミナーの実施、大学（施設）開放など様々な形態での教育活動及び学習機会の提供（教育サービス）を行っている。

これらのニーズや大学等における活動状況を踏まえ、平成12年度は、「教育サービス面における社会貢献」というテーマとして取り上げ、大学等における教育サービスに対する取組の考え方（目的・目標）やその取組状況、工夫・改善のためのシステム等について評価を実施する。

【テーマ：教養教育】

大学における教養教育については、平成3年の大学設置基準の大綱化（一般教育科目、専門教育科目等の科目区分の廃止）に伴い、各大学において、その教育理念に基づく教育課程の編成、教育方法及び履修指導など、主体的にその工夫・改善の努力がなされている。

また、社会が高度化・複雑化する中で、社会全体としても教養及び基礎的な学力の重要性が改めて指摘されており、大学における新たな教養教育の在り方を考慮した教育の推進が求められている。

これらのニーズや大学におけるこれまでの取組を踏まえ、平成12年度は、「教養教育」というテーマとして取り上げ、大学の考え方やそれを実現するための取組、工夫・改善のためのシステム等について評価を実施する。

なお、このテーマについては、その内容が幅広いこと及び大学審議会等においても、現在、その改善の基本的な方向性について審議されていることを考慮して、2年計画で実施することとし、1年目はこれまでの取組実績等を各大学において自己点検・評価したものを整理・公表し、2年目は1年目に提出された資料等に基づき、各大学の目的・目標に沿って、その取組状況や工夫・改善のためのシステム等について評価を実施する。